科　目　名	社会福祉概論Ⅰ		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング	NDa1001		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

この科目は、主に社会福祉の全体（基本）を学ぶものである。卒業必修でもあり、また同時に社会福祉士指定科目でもある。「社会福祉概論Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」とも関連がある。

②科目の概要

現代社会における福祉の理念、福祉制度、実態、福祉政策との関係という内容を学んでいく。

③授業の方法

　授業は講義中心とし、テキスト使用・説明・板書という方法で展開する。リアクションペーパー、小レポート、まとめのレポートにより理解度を深めていく。

④到達目標

1. 福祉の原理をめぐる理念、理論、哲学について理解することができる。
2. 福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。
3. 福祉政策の課題について理解することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「①-1　社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「③-1　問題解決のための専門性と倫理」に該当する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れながら、学びを深めていく。

ｺﾏ数

1　福祉制度の概念と理念①憲法理念を中心に

2　福祉制度の概念と理念②ノーマライゼーション理念を中心に

3　福祉制度と福祉政策の関係
4　福祉政策と政治の関係
5　福祉政策の主体と対象
6　福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
7　前近代社会と福祉（救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他）
8　近代社会と福祉（第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他）
9　現代社会と福祉（新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義（ その他）
10　需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他)
11　資源の定義（資源の定義、その他）
12　福祉政策と社会問題（貧困、孤独、失業、要援護〔児童・老齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除，ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
13　社会政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
14　福祉政策の課題と国際比較（国際動向を含む）
15　授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して４５分）。
【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して４５分）。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー２０％、小レポート２０％、まとめのレポート６０％で評価し、６０点以上を合格とする。
到達目標１－リアクションペーパー２０％、小レポート２０％、まとめのレポート６０％
到達目標２－リアクションペーパー２０％、小レポート２０％、まとめのレポート６０％
到達目標３－リアクションペーパー２０％、小レポート２０％、まとめのレポート６０％

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト]
・塩野敬祐・福田幸夫編『現代社会と福祉　第5版』弘文堂
・『福祉小六法　2020』みらい社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	社会福祉概論Ⅱ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	NDa2001		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本科目は人間福祉学科の基幹科目(卒業必修科目)。社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。「社会福祉概論Ⅰ」、「社会保障論Ⅰ」、「ソーシャルワーク論Ⅰ」、「基礎介護論Ⅰ・Ⅱ」との関連性がある。

②科目の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史的変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。社会福祉サービスを展開するうえで保健医療関係者及び地方行政機関との連携、協同のあり方について学び、社会福祉サービスに必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、社会福祉サービスの本質について検討する。

③授業の方法

講義方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

④到達目標

わが国の社会福祉制度の概要と各分野における基礎知識を修得し、説明ができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

①知識・技能

①－１社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を基本に、受講者とのディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	社会福祉の理念と概念について　～社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ ～【ディスカッション】
2	社会福祉の対象と主体について　～現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ～
3	社会福祉のニーズ概念について　～需要と供給の関係のもとに検討してゆく～
4	社会福祉の発展について　～英国と日本の比較をしながら学ぶ～
5	社会福祉法体系について（１）　社会保障制度と社会福祉法制度について検討する【ディスカッション】

6	社会福祉法体系について（２）　生存権を視点に社会保障制度と社会福祉法制度を検討する
7	福祉行財政の仕組み（１）
8	福祉行財政の仕組み（２）
9	中間まとめ
10	少子高齢化社会と暮らし（１）子どもの貧困の現状と対策
11	少子高齢化社会と暮らし（２）子どもの貧困の現状と対策【ディスカッション】
12	少子高齢化社会と暮らし（３）高齢者の貧困の現状と対策
13	少子高齢化社会と暮らし（４）高齢者の貧困の現状と対策　【ディスカッション】
14	未来への課題　～人権保障と生活保障～【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

到達目標に関する、中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び筆記試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。　中間試験５０％、筆記試験５０％。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：現代社会と福祉 <第4版> 社会福祉士シリーズ 4 現代社会と福祉

福祉臨床シリーズ編集委員会 編・ 塩野　敬祐 責任編集・ 福田　幸夫 責任編集 2017年01月刊　ISB

N　978-4-335-61176-6

他オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身近にある福祉の課題について、問題意識と課題への思考を持つことが学修意欲につながります。

科　目　名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	NDa1002		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護職、介護保険認定調査員および認定審査会委員の経験あり

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱを設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰは、高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

②科目の概要

高齢期と一概にいってもその時間的な幅は大きく、個々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点から、これらの内容を学ぶ。

③授業の方法

講義形式。

④学修目標（＝到達目標）

高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等に関し基礎的な知識を習得すること。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、学位授与方針（ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ）の①－１に該当する。

内容

1	オリエンテーション、高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
2	高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢／高齢者福祉に関する制度や実践の変遷①
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷②
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷②
5	介護保険制度①
6	介護保険制度②
7	介護保険制度③
8	介護保険制度④
9	老人福祉法①

10	老人福祉法②
11	高齢者虐待防止法①
12	高齢者虐待防止法②
13	高齢者の経済状況と就労
14	認知症の理解
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の住んでいる自治体（もしくは関心のある自治体）が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらっておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①課題の提出およびリアクションペーパーの内容（15点）、②小テスト（40点）、③最終レポート40点

④その他加点すべき優れた点（5点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーおよび小テストは、翌週以降に授業内でコメントまたは解説し、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石田一紀編『新エッセンシャル老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**児童・家庭福祉論**		
担当教員名	伊藤　陽一		
ナンバリング	NDa2003		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設（保育所及び児童養護施設）に勤務した経験がある。
講義内容も理論と実践の乖離が起きないよう即している。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得及び保育士資格取得の必修科目である。他科目との関係性は、社会福祉概論、保育原理、社会的養護ⅠⅡⅢ等々の社会福祉・保育士養成科目を履修することで更に深まる内容となっている。

②科目の概要

本科目では、児童家庭福祉の歴史的変遷、現状と課題、動向と展望のほか、児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み、諸制度、援助の方法など、専門職として必要となる児童福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識の習得を目指す。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義を中心に行い、子どもと家庭に関する法や制度、児童福祉施設の概要、を学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、グループワークやケースメソッドを取り入れ授業を行う。
【グループワーク】【レポート（知識）】【ケースメソッド】

④到達目標

１．児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、児童の権利・人権擁護について理解し、説明することができる。
２．児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。
３．児童家庭福祉の現状と課題について理解し、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-１社会福祉に関する法や制度の基本的理解、②-２援助・支援に関する理論の基本的理解、③-１問題解決のための専門性と倫理

内容

1	オリエンテーション　子ども家庭福祉を学ぶために

2	子どもと家庭の現状【レポート（知識）】
3	子ども家庭福祉の理念【レポート（知識）】
4	子ども家庭福祉の歴史的展開【レポート（知識）】
5	子ども家庭福祉の法・制度・実施主体【レポート（知識）】
6	保育施策と少子化対策【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
7	子どもの健全育成等の施策【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
8	ひとり親家庭に対する施策・サービス【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
9	児童虐待・DVに対する対策【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
10	社会的養護の施策・サービス【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
11	非行及び心理的課題を持つ子どもに対する施策・サービス【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
12	障害の子どもとその過程に対する施策・サービス【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
13	子ども家庭福祉を担う関係機関【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
14	子ども家庭福祉の今後の課題【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回

【事前準備】教科書「序章　子どもの理解」を読み、考察を行っておく。[60分]

【事後学修】授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。[60分]

第2回～第14回

【事前準備】授業内容について、教科書の該当箇所をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容についてレポートにまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

課題提出（40%）、筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.　課題提出（15%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標2.　課題提出（15%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標3.　課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

①比嘉眞人監修（2017）『輝く子どもたち　子ども家庭福祉論』 みらい、

【推薦図書】

授業内で紹介する。

【参考図書】

授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**障害者福祉論**		
担当教員名	人見　優子		
ナンバリング	NDa1004		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活とそれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要について指導していく。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は卒業認定の必修科目であり、ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけるための科目である。また社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応し、さらに介護福祉士受験資格取得のための指定科目であり、人間福祉学科での卒業必修科目である。

②科目の概要

本科目では、障害のある人の生活とそれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要について学んでいく。これまでの障害者福祉制度の発展過程や相談援助活動において必要となる障害者総合支援法、障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

③授業の方法（ALを含む）

講義を中心として展開するが、グループワーク、レポート発表を行う。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】【レポート（知識）】

④到達目標

（1）障害のある人への福祉の歴史と理念について説明できる。
（2）障害のある人の生活実態について説明できる。
（3）障害のある人への自立支援制度の概要とサービスの実際を結びつけて説明できる。
（4）障害のある人への専門職のかかわりの重要点を説明できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解,③-1問題解決のための専門性と倫理

内容

1	障害者福祉の視点【グループワーク】

2	障害者福祉の歴史（欧米）
3	障害者福祉の歴史（日本）
4	障害者の基本理念
5	障害の概念
6	障害者の生活とニーズ【グループワーク】
7	障害者福祉の法体系と実施機関①
8	障害者福祉の法体系と実施機関②
9	障害者福祉の生活保障
10	障害者福祉を支える人々
11	障害者福祉実践【レポート（知識）】
12	障害者ケアマネジメント
13	障害者の社会参加
14	障害者の権利擁護【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連ページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）
【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ、理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】到達目標の達成度は、グループワークに基づく課題ワークシートの内容、小テスト及び試験での理解度より評価する。評価基準はグループワーク等授業への参加度10%、課題ワークシート及び小テスト30%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質疑に対する説明時間を設定し、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他「新社会福祉士養成課程対応第2版障害者への支援と障害者自立支援制度」：株式会社みらい
【推薦書】社会保障研究所「障害者福祉ガイド2019」：株式会社社会保険研究所
【参考図書】社会福祉学習双書編集委員「障害者福祉論2019」：全国社会福祉協議会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、テキストにそってすすめられますが、自分の考えやあり方を求められる課題やグループワークも行います。学生同士で学びを共有できるよう自己学習をしっかり行い学びを深めていきましょう。

科　目　名	**医学一般**		
担当教員名	人見　優子		
ナンバリング	NDa1005		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして介護・福祉領域に携わる専門職に必要な心身の健康、病気、老化に関する知識、健康上の問題や障害を持つ人々の生活のニーズ、支援の方法について指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、社会福祉士及び介護福祉士資格取得のための指定科目で選択必修科目である。介護・福祉領域に携わる専門職に必要な心身の健康、病気、老化に関する知識を幅広く習得することで支援にいかし、医療関係者と連携を保つ力の基礎知識を得る。社会福祉基礎科目に位置付けられ、ヒトを対象とするすべての科目と関連する。

②科目の概要

本科目は人体の構造と機能、主な疾病や障害について学ぶ。ヒトの成長や発達、正常な身体構造及び生体活動、疾病や障害の概要、リハビリテーション、医療社会保障の概要について理解を深める。

③授業の方法（ALを含む）

講義を中心にすすめるが、映像の活用やグループワークを行い理解を深める。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】

④到達目標

(1)基本的な人体の構造と機能をイラストをみながら説明することができる。

(2)介護・福祉の現場で必要な疾病や傷害の概要を説明することができる。

(3)医学知識と健康の視点から対人援助や多職種との連携を説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-4人権尊重の理解,問題解決の方法提示,②-3統計的資料の解釈と理解

内容

1	オリエンテーション、人の成長・発達
2	人の老化と高齢者に多い疾患【グループワーク】
3	身体の構造と機能
4	疾病の概要①：脳血管疾患、心疾患、高血圧

5	疾病の概要②：呼吸器疾患、消化器疾患
6	疾病の概要③：腎臓疾患、泌尿器系疾患、血液疾患と膠原病
7	疾病の概要④：神経疾患と難病、先天性疾患
8	疾病の概要⑤：生活習慣病、悪性新生物、内分泌疾患、終末期
9	障害の概要①：視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由
10	障害の概要②：内部障害、知的障害、発達障害
11	障害の概要③：認知症、高次機能障害、精神障害
12	リハビリテーションの概要
13	国際生活機能分類の基本的な考え方
14	健康のとらえ方【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連ページを読み、専門用語等は読み書きできるようにしておく。（各授業に対して60分）
【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】達成目標の達成度は課題ワークシート、小テスト、筆記試験の理解度にて評価する。評価基準は、発表など授業への参加度10%、課題ワークシート及び小テスト30%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質疑に対する説明時間を設定し、理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会「新・社旗福祉養成講座1人体の構造と機能及び疾病第3版」中央法規出版株式会社
【推薦書】竹内修二「人体のすべてがわかる本」株式会社ナツメ社
【参考図書】福祉臨床シリーズ編集委員会「人体の構造と機能及び疾病」株式会社弘文堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

わかりやすい説明を心がけていきますが、疾患名や症状などの専門用語など覚えていただくことが多い科目です。事前事後学習なしに目標到達は難しいため、主体的かつ計画的に取り組んでください。

科　目　名	ソーシャルワーク論Ⅰ		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング	NDa1009		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は卒業必修科目であり、また社会福祉士養成課程の「相談援助の基盤と専門職」の一科目に該当する。ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学び、理解を深める。「社会福祉概論Ⅰ」「社会福祉概論Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅱ」、「ソーシャルワーク論Ⅲ」とも関連がある。

②科目の概要

本科目は、社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について学び、さらに相談援助に係る概念及びその範囲についてその形成過程から理解し、相談援助の重要な理念（人権尊重、社会正義、利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション）について理解を深める。

③授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト使用・板書という方法で展開する。リアクションペーパー、小レポート、まとめのレポートにより理解度を深める。

④到達目標

本科目はソーシャルワークの基本理念や基礎的知識を身につけ、実際の現場における活用としてのステップへ向かえるようになることを目標とする。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「①-1　社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「②－2　援助・支援に関する理論の基本的理解」に該当する。

内容

1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要ー本科目は講義を基本とするが毎回適宜、質疑応答を行う。
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義

5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念　2　社会正義
9	相談援助の理念　3　利用者本位
10	相談援助の理念　4　尊厳の保持
11	相談援助の理念　5　権利擁護
12	相談援助の理念　6　自立支援（地域生活支援）
13	相談援助の理念　7　社会的包摂(地域包括）
14	相談援助の理念　8　ノーマライゼイション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】専門的な知識や用語に接する事を基本に、授業時に指定された次回予定のテキスト箇所を一読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して４５分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回の授業テキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して４５分）。

評価方法および評価の基準

到達目標について、リアクションペーパー、２０％、小レポート２０％、まとめのレポート６０％で評価し、６０点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柳澤・坂野責任編集『相談援助の基盤と専門職　第4版 』弘文堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	NDb0025		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

② 科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③ 授業の方法（ALを含む）

ワークシートを用い、個人ワーク・グループディスカッション・発表等を行い、都度教員よりフィードバックを行う。

④ 到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解できる。また、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得する。

⑤ ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

③-2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

第1回　オリエンテーション

第2～7回　自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回　援助関係とコミュニケーション

第13～14回　相談援助の価値・倫理

第15回　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①ワークシートや小テスト（65点）、②授業での参加姿勢（15点）、③最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	NDb0025		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

② 科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③ 授業の方法（ALを含む）

ワークシートを用い、個人ワーク・グループディスカッション・発表等を行い、都度教員よりフィードバックを行う。

④ 到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解できる。また、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得する。

⑤ ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

③-2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

第1回　オリエンテーション

第2～7回　自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回　援助関係とコミュニケーション

第13～14回　相談援助の価値・倫理

第15回　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①ワークシートや小テスト（65点）、②授業での参加姿勢（15点）、③最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	NDb0025		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Cクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

② 科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③ 授業の方法（ALを含む）

ワークシートを用い、個人ワーク・グループディスカッション・発表等を行い、都度教員よりフィードバックを行う。

④ 到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解できる。また、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得する。

⑤ ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

③-2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

第1回　オリエンテーション

第2～7回　自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回　援助関係とコミュニケーション

第13～14回　相談援助の価値・倫理

第15回　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①ワークシートや小テスト（65点）、②授業での参加姿勢（15点）、③最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	NDb0025		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Dクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

② 科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③ 授業の方法（ALを含む）

ワークシートを用い、個人ワーク・グループディスカッション・発表等を行い、都度教員よりフィードバックを行う。

④ 到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解できる。また、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得する。

⑤ ディプロマ・ポリシーとの関係

①-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

③-2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

第1回　オリエンテーション

第2～7回　自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回　援助関係とコミュニケーション

第13～14回　相談援助の価値・倫理

第15回　まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

①ワークシートや小テスト（65点）、②授業での参加姿勢（15点）、③最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	基礎介護論Ⅰ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	NDc1026		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験５年以上の教員が条件。その経験を活かして、最新の介護現場でのコミュニケーションスキルを講義している。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の基幹科目(必修科目)。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ」、「基礎介護論Ⅱ」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

②科目の概要

１．介護福祉士を取り巻く状況（介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化）や２．介護問題理解、３．介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

③授業の方法

講義方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

④到達目標

介護福祉学の基礎知識を理解・修得し、説明することができる。

「尊厳」と「自立」の捉え方について理解・修得し、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①知識・技能

①－１社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者２人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	前期オリエンテーション　内　容：求められる介護福祉士とは何か

2	介護福祉士を取り巻く状況①　内　容：介護の歴史的変遷　～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況②　内　容：介護の歴史的変遷　～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況③　内　容：介護の歴史的変遷　～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況④　内　容：介護の歴史的変遷　～老人福祉法から介護保険制度　利用者主体の介護～【ディスカッション】
6	介護福祉士を取り巻く状況⑤　内　容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況⑥　内　容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況⑦　内　容：老老介護と高齢者虐待～人権と介護～
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ～尊厳を支える介護～①　内　容：福祉専門職種資格の変遷【ディスカッション】
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ～尊厳を支える介護～②　内　容：介護福祉士の定義と義務規定【ディスカッション】
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ～尊厳を支える介護～③　内　容：ノーマライゼーションの歴史とその実現【ディスカッション】
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ～尊厳を支える介護～④　内　容：介護福祉士養成の現状と課題【ディスカッション】
13	専門職団体の活動①　内　容：日本介護福祉士会の現状と課題【ディスカッション】
14	専門職団体の活動②　内　容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

２つの到達目標について、筆記試験の設問（各課題設問４０点×２＝８０点）と課題レポート（書籍紹介）２０点において総合評価６０点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村　洋子（編集）『最新 介護福祉全書 ３　介護の基本』メジカルフレンド社,第6版/2018年 12月

。 他オリジナル資料配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身近にある福祉の課題について、問題意識と課題への思考を持つことが学修意欲につながります。

科　目　名	基礎介護論Ⅱ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	NDc2026		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験５年以上の教員が条件。その経験を活かして、最新の介護現場でのコミュニケーションスキルを講義している。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の基幹科目(必修科目)。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ」、「基礎介護論Ⅰ」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

②科目の概要

１．「尊厳を支える介護」、２．「自立に向けた介護」３．「介護を必要とする人の理解」４．「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護)」、について学習する。

③授業の方法

講義方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

④到達目標

介護福祉学の基礎知識を理解・修得し、説明することができる。

「尊厳」と「自立」の捉え方と「倫理」について理解・修得し、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①知識・技能

①－１社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者２人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	尊厳を支える介護①　内　容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護②　内　容：A.マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護③　内　容：ノーマライーゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護④　内　容：ノーマライーゼーションからエンパワメント【ディスカッション】
5	尊厳を支える介護⑤　～高齢者、障害者の暮らしの実際～　内　容：憲法２５条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護⑥　～高齢者、障害者の暮らしの実際～　内　容：憲法１３条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護⑦　～高齢者、障害者の暮らしの実際～　内　容：生活保護と尊厳を支える介護【ディスカッション】
8	介護を必要とする人の生活環境の理解①　内　容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の生活環境の理解理解②　内　容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～
10	介護サービスの現状①　内　容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状②　内　容：介護保険制度の概要～住環境の整備と地域社会～
12	介護実践における連携 内　容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理①　内　容：介護従事者の職業倫理【ディスカッション】
14	介護従事者の倫理②　内　容：介護実践の場で求められる倫理【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

２つの到達目標について、筆記試験の設問（各課題設問４０点×２＝８０点）と課題（書籍紹介）レポート２０点において総合評価６０点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村　洋子（編集）『最新 介護福祉全書 ３　介護の基本』メジカルフレンド社,第6版/2018年 12月

。 他オリジナル資料配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身近にある福祉の課題について、問題意識と課題への思考を持つことが学修意欲につながります。

科　目　名	コミュニケーション技術Ⅰ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	NDc1029		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験５年以上の教員が条件。その経験を活かして、最新の介護現場でのコミュニケーションスキルを講義している。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

① 科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の必修科目。介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

「コミュケーション技術Ⅱ」、「基礎介護論Ⅰ・Ⅱ」、「介護と倫理」、「ソーシャルワーク論Ⅰ」、との関連性がある。

②科目の概要

　コミュニケーション技術Ⅰでは介護におけるコミュニケーションの基本について、（１）コミュニケーションとは、（２）コミュニケーションの基本、（３）コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

③授業の方法

演習方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

④到達目標

介護におけるコミュニケーションの基本理念について理解・修得し、説明することができる。

コミュニケーション理論とスキルについて、理解・修得し、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

①知識・技能

①－１社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２問題解決のための専門性と倫理

①－３専門的援助関係の基本的理解と形成

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション　～授業の概要～
2	コミュニケーションとは（１）～日常生活におけるコミュニケーション～意義、目的【ディスカッション】
3	コミュニケーションとは（２）～日常生活におけるコミュニケーション場面～役割【ディスカッション】
4	コミュニケーションとは（３）～日常生活におけるコミュニケーション手段～コミュニケーションモデルの概要【ディスカッション】
5	コミュニケーションの基本（１）～介護福祉士に求められるコミュニケーション能力～積極的傾聴と援助者の態度【ディスカッション】
6	コミュニケーションの基本（２）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～援助者の気づきと洞察【ディスカッション】
7	コミュニケーションの基本（３）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～転移、逆転移、投影性同一化【ディスカッション】
8	コミュニケーションの理論と実際（１）～自己紹介と他者紹介～傾聴の技法と積極的技法【ディスカッション】
9	コミュニケーションの理論と実際（２）～自己紹介と他者紹介～傾聴の技法と積極的技法【ディスカッション】
10	コミュニケーションの理論と実際（３）～自己開示～【ディスカッション】
11	コミュニケーションの理論と実際（４）～伝達演習～傾聴の技法と積極的技法【ディスカッション】
12	コミュニケーションの理論と実際（５）～価値交流～納得と同意を得る技法【ディスカッション】
13	コミュニケーションの理論と実際（６）～交流分析と自己覚知～【ディスカッション】
14	コミュニケーションの理論と実際（７）～リーダーシップ理論～相談、助言、指導【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

２つの到達目標について、筆記試験の設問（各課題設問４０点×２＝８０点）と課題レポート２０点において総合評価６０点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井　奈美ISBN：978-4-8392-3193-4

第2版/2014年 12月

他オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

コミュニケーションとは何か？日常生活での人との関わりから、その意味について思考を持つことが学修意欲につながります。

科　目　名	生活支援技術概論		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDc1030		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有した教員が介護施設での実務経験を活かし、日常生活の自立を促す個々に応じた生活支援のあり方とその基本的知識について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程の教育カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。

②科目の概要

介護とは、介護福祉士の理念に基づき、日常生活を営むのに支障がある者への支援（＝日常生活支援）を意味している。介護を必要とする人々の日常生活の自立を促し、個々に応じた安全で安楽な基本的介護技術を実践するに必要となる基本的知識を身に付ける。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】また、学生が授業内容から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し適宜教員がフィードバックし内容理解を深める【リアクションペーパー】

④到達目標

１．支援を必要な人にとって人間として尊厳ある「暮らし」について理解することができる。
２．自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解することができる。
３．基礎的な生活支援技術の理論を理解することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解
①－２　支援に関しての基本的理解
②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	ガイダンス　「生活」とは　～概念・定義の理解～
2	生活支援とは何か（１）
3	生活支援とは何か（２）
4	高齢者と障害者の理解（１）
5	高齢者と障害者の理解（２）
6	自立に向けた生活支援　（移動・移乗の意義と目的：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援　（移動・移乗の意義と目的：体位変換）
8	自立に向けた生活支援　（安全な移動：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援　（安全な移動；車椅子介助）
10	施設における高齢者の暮らしの実際
11	施設における障害者の暮らしの実際
12	施設における暮らしの実際とまとめ
13	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持の意義と目的）
14	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	生活支援技術概論　基礎的理解の総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に配布するシラバスで次回の講義内容の詳細を確認し、使用テキストの該当箇所（解説文）を読んでおく。連続授業の生活支援技術Ⅰ＜実技＞にも関連する内容であることから、内容理解に努めること。（各授業に対し60分）

【事後学修】毎回の講義時に配布された資料と教科書で振り返る。連続授業である生活支援技術Ⅰの実技と合わせて講義内容について確認し理解を深める（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

体験型課題レポート（30%）、筆記試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却し、質疑についても授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版

【推薦書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。　※再試験の実施については平均点等から検討する。

科　目　名	日常生活支援技術Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDc1031		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有する教員が介護施設等での実務経験を活かし、日常生活の自立を促す個々の生活支援技術の基本的技術について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程の教育カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。

②科目の概要

介護とは、介護福祉士の理念に基づき、日常生活を営むのに支障がある者へ支援（＝日常生活支援）を意味している。介護を必要とする人々の日常生活の自立を促し、個々に応じた安全で安楽な基本的介護技術を実践するに必要となる基本的知識を身に付ける。

③授業の方法（ALを含む）

連続授業である前講義で得た知識や技術をもとに介護実習室にて実技練習を行う。【実技】

実技は介助者・利用者役共に経験することで相互理解を深める。

④到達目標

１．支援を必要とする人にとっての尊厳のある「暮らし」のあり方について理解することができる。

２．自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解することができる。

３．基礎的な生活支援技術の理論を理解し実践することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２　支援に関しての基本的理解

②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	生活とは何か　生活支援における技術

2	生活支援技術とは何か
3	生活における環境整備（１）
4	生活における環境整備（２）
5	高齢者疑似体験
6	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：体位変換）
8	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：車いす介助）
10	施設における生活支援技術の実際
11	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助まとめ）
12	自立に向けた生活支援技術（バイタルサイン・バイタルチェック）
13	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
14	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	自立に向けた生活支援技術概論　総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回に配布されたシラバスに基づき、「日常生活支援概論・生活支援技術Ⅰ」の授業・演習内容を確認し予習しておく。前講の講義・演習内容と連動する内容も含むため、復習も必ずしておくこと。（各授業に対し60分）

【事後学修】演習で学んだ介護技術を確実に身に付けるため、介護実習で実践できるよう復習し練習する。事後学修は、利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート（３０％）、実技試験（７０％）として総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については、試験直後に解説を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版

【参考図書】壬生尚美　佐分行子「事例で生部生活支援技術習得　新カリ対応」日総研

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各回の演習内容によって、持ち物が異なります。事前に授業やライブキャンパスにて周知しますので、
忘れ物の内容に準備し授業に臨んでください。

科　目　名	日常生活支援技術Ⅱ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDc2031		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士の資格を有し介護施設での実務経験を積んだ教員がその経験を活かし、介護を必要とする個々に応じた生活支援技術を実践するに必要となる知識について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

②科目の概要

　日常生活支援とは、介護を必要とする人に対して、自立に向けて様々な視点から生活を支援していくための技術である。日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて安全で安楽に支援できるように、知識や技能を習得する。科学的根拠に基づく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においても活かす力を身に付けるための学びである。

③授業の方法（ALを含む）

　本科目は、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】また、学生が授業内容から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し適宜教員がフィードバックし内容理解を深める【リアクションペーパー】

④到達目標

　１．介護を必要とする人の自立（自律）に向けた介護のあり方について理解することができる。
　２．科学的根拠に基づいた生活支援技術に関する知識を身に付け理解することができる。
　３．生活支援技術における多職種連携について理解することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

　①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解
　①－２　支援に関しての基本的理解
　②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	ガイダンス・生活支援技術の実際と応用について
2	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展見学）
3	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展振返り）
4	自立に向けた生活支援技術（食事介助）
5	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助　基礎）
6	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助　応用）
7	自立に向けた生活支援技術（屋外での車いす介助）
8	自立に向けた生活支援（福祉用具の利用と留意点）
9	施設における生活支援技術の実際①
10	施設における生活支援技術の実際②
11	自立に向けた生活支援技術（排泄介助①）
12	自立に向けた生活支援技術（排泄介助②）
13	自立に向けた生活支援技術（排泄介助③）
14	自立に向けた生活支援技術（睡眠時の介護・環境整備）
15	生活支援技術Ⅱ　概論総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に配布するシラバスで次回の講義内容の詳細を確認し、使用テキストの該当箇所（解説文）を読んでおく。連続授業の生活支援技術Ⅲ＜実技＞にも関連する内容であることから、内容理解に努めること。（各授業に対し60分）
【事後学修】毎回の講義時に配布された資料と教科書で振り返る。連続授業である生活支援技術Ⅲの実技と合わせて講義内容について確認し理解を深める（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

体験型課題レポート（30%）、筆記試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却し、質疑についても授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版
【推薦書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。　※再試験の実施については平均点等から検討する。

科　目　名	日常生活支援技術Ⅲ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDc3031		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有した教員が介護施設での実務経験を活かし、日常生活の自立を促す個々に応じた生活支援のあり方とその基本的知識について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程の教育カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。

②科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的に介護をするだけでなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し潜在的能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

連続授業である前講義で得た知識や技術をもとに介護実習室にて実技練習を行う。【実技】

実技は介助者・利用者役共に経験することで相互理解を深める。

④到達目標

１．介護を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択することができる

２．介護を必要とする人の状態変化に応じ、プライバシーを保持した安全・安楽に対応できる技術を修得し実践することができる。

３．必要な福祉用具の機能を理解し、介護を必要とする個々に適した選択をすることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２　支援に関しての基本的理解

②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	高齢者・障害者における生活環境整備　福祉機器展見学
2	高齢者・障害者における生活環境整備　福祉機器展振返り
3	自立に向けた生活支援技術（整容）
4	自立に向けた生活支援技術（衣服の着脱介助　応用）
5	自立に向けた生活支援技術（食事介助　基礎）
6	自立に向けた生活支援技術（食事介助　応用）
7	自立に向けた生活支援技術（屋外における車いす介助）
8	自立に向けた生活支援技術（福祉用具を活用と留意点）
9	施設における生活支援技術の実際（多職種連携）
10	施設における生活支援技術の実際（実習Ⅰ-①）
11	自立に向けた生活支援技術（排泄介助①）
12	自立に向けた生活支援技術（排泄介助②）
13	自立に向けた生活支援技術（排泄介助③）
14	自立に向けた生活支援技術（睡眠時における介助）
15	生活支援技術Ⅲ　総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回に配布されたシラバスに基づき、「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」の授業・演習内容を確認し予習しておく。前講の講義・演習内容と連動する内容も含むため、復習も必ずしておくこと。（各授業に対し60分）

【事後学修】演習で学んだ介護技術を確実に身に付けるため、介護実習で実践できるよう復習し練習する。事後学修は、利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート（３０％）、実技試験（７０％）として総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については、試験直後に解説を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版

【参考図書】壬生尚美　佐分行子「事例で生部生活支援技術習得　新カリ対応」日総研

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各回の演習内容によって、持ち物が異なります。事前に授業やライブキャンパスにて周知しますので、
忘れ物の内容に準備し授業に臨んでください。

　前期科目の「日常生活支援概論」と「生活支援技術Ⅰ」と連動する科目です。後期履修前に、前期で学んだことを必ず復習し、基礎的な生活支援技術の確認をしてください。

科　目　名	介護過程基礎Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDc1037		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有した教員が介護施設での実務経験を活かし、利用者の生活を支援する視点に立った介護過程の展開方法の基礎について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は介護過程の導入科目として位置付け、次の３つをねらいとする。

１．介護過程を学ぶ前提として、人との関わりや人の生活についての理解を深めることができる

２．介護過程を学ぶ前提として、「課題解決思考」について理解できる。

３．「情報」の内容や意味を理解し、「情報」に基づき「利用者の願いや思い」を理解できる。

②科目の概要

「学習目標（＝到達目標）を達成するために、各テーマに沿った講義・演習を行う。

③授業の方法（ALを含む）

学生が授業内容から得た知識や考え方、感想などを記入しフィードバックを行う。講義内容に応じて、協同で課題に取組み、ディスカッションやロールプレイと組みわせることで他者理解についても学び本科目の到達目標へとつなげる。【リアクションペーパー】【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】

④到達目標

１．介護過程の展開に必要な視点「課題解決思考」及び「情報」について理解できる（知識・理解）

２．自己学習及びグループ学習を通し、提示したワークを達成できる（思考・技能・実践）

３．授業内容に対し、自ら取組み、考える態度を持つ（態度・志向性）

４．他者と意見交換し、相互に学びあう姿勢を持つ（態度・志向性）

５．提示したワークに対し、提出物は締切を厳守して提出できる（態度・志向性）

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①－２　支援に関しての基本的理解

内容

1	オリエンテーション：介護過程とは
2	Ⅰ　介護過程を学ぶために①　＜コミュニケーション＞
3	Ⅰ　介護過程を学ぶために②　＜他者理解＞
4	Ⅰ　介護過程を学ぶために③　＜自己覚知とわたしの生活＞
5	Ⅰ　介護過程を学ぶために④　＜高齢者が生きてきた時代＞
6	Ⅰ　介護過程を学ぶために⑤　＜高齢者が生きてきた時代＞
7	Ⅱ　利用者の願いや思いに気づく①
8	Ⅱ　利用者の願いや思いに気づく②
9	Ⅱ　利用者の願いや思いに気づく③
10	Ⅱ・Ⅲ　利用者の願いや思いに気づく／課題解決思考①
11	Ⅲ　課題解決思考②＜情報の整理＞
12	Ⅲ　課題解決思考③＜情報の分析・解釈・統合＞
13	Ⅲ　課題解決思考④＜情報の分析・解釈・統合＞
14	Ⅲ　課題解決思考⑤＜情報の分析・解釈・統合＞
15	Ⅲ　まとめ・介護過程基礎Ⅱに向けて

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回に配布するシラバスを確認し使用テキストを読み予習をしておく。講義終了時に課題の提示がある場合には必ず取り組むこと（各授業に対して６０分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返ると共に、専門用語や疑問点について調べ理解を深める。課題提示時は期日までに提出できるよう取り組む（各授業に対して６０分）

評価方法および評価の基準

Ⅰ：授業への参加状況及び毎回の振返り内容３０％　Ⅱ：演習課題の提出（内容評価含む）：７０％

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題やフィードバックシートは、翌週以降の授業内で質疑に応答し必要に応じて紹介することもある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「楽しく学ぶ介護過程」（新版）,時潮社，2018年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	発達と老化Ⅰ		
担当教員名	蝦名　直美		
ナンバリング	NDc1040		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

介護福祉士養成課程の必修科目であり、人間の発達と老化に関して理解を深め、対人支援を行う際の基本的な知識を学修する。

②科目の概要

知覚・注意・認知機能・性格など、主に心理的側面の発達と老化について理解する。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびミニテストを取り入れた授業を行う。

④到達目標

1　心理的側面の発達と老化に関する基本的な知識について説明することができる。
2　発達と老化に関する知識を使って，自分や周囲の人々の心や行動について解釈することができる。
3　発達と老化に関する基本的な知識をもとに，発達段階ごとの援助方法の案を作成できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解、①－２　支援に関しての基本的理解、②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

各回、教科書および配布プリントをもとに講義を行う。

1	ガイダンス、発達とは何か【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp1-17
2	発達理論と発達課題（バルテス，ハヴィガーストの理論）【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp19-34
3	発達課題と発達課題（エリクソン，ピアジェの理論）【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp47-54　pp80-84

4	愛着，子どものあそびの発達的変化，道徳性の発達　【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp55-68
5	身体的発達，発達障害【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp35-46
6	感覚・知覚の基礎的な理解，視覚の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp121-123
7	聴覚および嗅覚・味覚の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp121-123
8	注意・反応の基礎的な知識と老化【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp143-150
9	記憶の基礎的な知識と老化【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp143-150
10	知能の基礎的な知識と老化【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp151-152
11	パーソナリティの基礎的な知識と発達的変化【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp155-154
12	適応・ストレスの基礎的な知識【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp155-162
13	高齢者の社会的活動【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp164-185
14	喪失と悲嘆【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp85-107
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

第1回　シラバスで第1回授業の教科書該当ページを確認し，授業開始までに読んでおくこと。

第2回～第14回　各回，事前に配布した資料および教科書該当ページを読んでおくこと。

第15回　第1回から第14回の授業の内容を整理しておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して６０分。

【事後学修】

授業で扱ったトピックについて学生同士で話し合いながら内容をまとめ、履修者以外の他者にも内容を説明できるようにしておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して３０分。

評価方法および評価の基準

【評価方法】

各授業回のリアクションペーパーおよびミニテストへの取り組み（50%）と筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標１　リアクションペーパーおよびミニテスト（20%／50%），筆記試験（20%／50%）

到達目標２　リアクションペーパーおよびミニテスト（15%／50%），筆記試験（15%／50%）

到達目標３　リアクションペーパーおよびミニテスト（15%／50%），筆記試験（15%／50%）

【フィートバック】提出されたリアクションペーパーはコメントを付し翌週以降の授業時間内に返却する。ミニテストは翌週以降の授業時間内に返却および解説を行う。筆記試験は返却の上、解説プリントを配布する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「発達と老化の理解」介護福祉士養成講座編集委員会（編集）　中央法規出版　ISBN：978-4-8058-5772-4
【参考図書】授業時間内に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を実施する。第15回の授業終了の時点で再試験該当者がいる場合には，再試験の実施日時や方法をLiveCampusの授業連絡にて周知する。

科　目　名	発達と老化Ⅱ		
担当教員名	蝦名　直美		
ナンバリング	NDc2040		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

介護福祉士養成課程の必修科目であり、人間の発達と老化に関して理解を深め、対人支援を行う際の基本的な知識を学修する。

②科目の概要

身体機能の老化，高齢者に多い疾患や症状など、主に身体的側面の発達と老化について理解する。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびミニテストを取り入れた授業を行う。

④到達目標

1　身体的的側面の発達と老化に関する基本的な知識について説明することができる。

2　高齢者に多い疾患について説明することができる。

3　発達と老化および高齢者に多い疾患に関する知識をもとに，症状ごとの援助方法の案を作成できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解、①－２　支援に関しての基本的理解、②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

各回、教科書および配布プリントをもとに講義を行う。

1	ガイダンス，高齢者の定義，高齢者の健康，老化学説【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp70-77，pp188-195
2	骨・関節・筋肉の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp202-216
3	皮膚，歯・口腔疾患の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp223-227，pp259-266，

4	循環器の老化と疾患【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp228-235
5	呼吸器の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp241-246
6	消化器の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp241-245
7	腎・泌尿器系の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp246-251
8	内分泌・代謝の老化と疾患【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp251-259
9	悪性新生物・感染症【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp266-277
10	脳・神経系の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp217-223
11	精神疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp277-289
12	高齢者の疾患の特徴【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp196-201
13	多職種連携【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp294-299
14	老化に伴う身体的な変化と生活への影響【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp110-113
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

第1回　シラバスで第1回授業の教科書該当ページを確認し，授業開始までに読んでおくこと。

第2回～第14回　各回，事前に配布した資料および教科書該当ページを読んでおくこと。

第15回　第1回から第14回の授業の内容を整理しておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して６０分。

【事後学修】

授業で扱ったトピックについて学生同士で話し合いながら内容をまとめ、履修者以外の他者にも内容を説明できるようにしておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して３０分。

評価方法および評価の基準

【評価方法】

各授業回のリアクションペーパーおよびミニテストへの取り組み（50%）と筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標１　リアクションペーパーおよびミニテスト（20%／50%），筆記試験（20%／50%）

到達目標２　リアクションペーパーおよびミニテスト（20%／50%），筆記試験（20%／50%）

到達目標３　リアクションペーパーおよびミニテスト（10%／50%），筆記試験（10%／50%）

【フィートバック】提出されたリアクションペーパーはコメントを付し翌週以降の授業時間内に返却する。ミニテストは翌週以降の授業時間内に返却および解説を行う。筆記試験は返却の上、解説プリントを配布する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「発達と老化の理解」介護福祉士養成講座編集委員会（編集）　中央法規出版　ISBN：978-4-8058-5772-4
【参考図書】授業時間内に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を実施する。第15回の授業終了の時点で再試験該当者がいる場合には，再試験の実施日時や方法をLiveCampusの授業連絡にて周知する。

科　目　名	**保育原理**		
担当教員名	亀﨑　美沙子		
ナンバリング	NDd2045		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援施設において、子どもの保育や保護者に対する相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、保育所の機能や役割について、家庭や地域との関係的な視点から理解を深めることができるよう指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

②科目の概要

本科目では、保育所等の機能と役割、保育に関する諸制度、保育思想、保育者の免許・資格、保育の目的・方法・内容等、保育の基本的事項について幅広く学んでいく。また、レポートの作成やペアワーク、グループワーク等を取り入れながら、学びを深めていく。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心としつつ、ペアワーク、グループワーク、レポート作成を取り入れ、授業を行う。また、リまた、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。

【リアクションペーパー】【レポート（表現）】【グループワーク】【ペアワーク】【レポート（知識）】

④到達目標

１．現代社会における保育の意義と課題について考察し、自分なりの意見を述べることができる。

２．日本および諸外国の保育思想について理解し、説明することができる。

３．保育の原理を理解し、具体的な実践場面において活用することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間福祉学科のディプロマポリシーのうち、以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1：社会福祉に関する法や制度の基本的理解

①-2：支援に関しての基本的理解

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス【リアクションペーパー】
2	保育の意義と目的、対象【リアクションペーパー】【グループワーク】

3	保育所等の機能と社会的役割【リアクションペーパー】
4	保育所等の制度的枠組み【リアクションペーパー】
5	保育職の資格・免許【リアクションペーパー】
6	諸外国の保育の思想と歴史【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
7	日本の保育の思想と歴史【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
8	保育所保育の基本【リアクションペーパー】【ペアワーク】
9	保育の目標と方法【リアクションペーパー】【ペアワーク】
10	保育のねらいと内容【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	視点と領域、10の姿の理解【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	養護と教育の一体的展開【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	環境を通した保育【リアクションペーパー】【ペアワーク】
14	保育の計画と評価【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回

【事前準備】「保育所保育指針第1章総則」を読んでおく。[60分]

【事後学修】授業内容をA4用紙2枚以内にまとめる。[60分]

第2回～第13回

【事前準備】テキストの該当内容をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容をA4用紙2枚以内にまとめる。[60分]

第14回～第15回

【事前準備】授業内容の重要箇所をまとめる。[60分]

【事後学修】授業内容のうち、理解不足の点を明らかにし、その点について理解を深める。[120分]

評価方法および評価の基準

　リアクションペーパー（20%）、課題提出（30%）、筆記試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.　リアクションペーパー（20%/20%）、課題提出（5%/30%）、筆記試験（20%/50%）

到達目標2.　課題提出（20%/30%）、筆記試験（10%/50%）

到達目標3.　課題提出（5%/30%）、筆記試験(20%/50%）

【フィードバック】

毎回のリアクションペーパーおよびレポートの講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

①柴崎正行編著（2018）『改訂版　保育原理の基礎と演習』わかば社、②厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館、③内閣府・厚生労働省・文部科学省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【参考図書】

①子どもと保育総合研究所監修『最新保育資料集2020』ミネルヴァ書房、②森上史朗・柏女霊峰編『保育用語事典第7版』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	保育の心理学		
担当教員名	亀田　秀子		
ナンバリング	NDd1048		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育士資格取得に関する必修科目である。生涯発達の観点で、子どもの発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、子どもの発達援助のあり方を理解することを目指す。

②科目の概要

乳幼児期の発達と保育者の役割について理解する。また、生涯発達の観点で、子どもの情緒の発達、ことばの発達、記憶の発達等を理解し、人とのかかわりを通して成長することの理解を深める。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心として、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】

④到達目標

1.学生は、保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎の理解を深め、説明することができる。

2.学生は、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解し、説明することができる。

3.学生は、生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育との関連を説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２支援に関しての基本的理解　①－３専門的援助関係の基本的理解と形成　①－５生活課題の理解、問題解決の方法提示　②－２援助・支援に関する理論の基本的理解　②－４体験の意味付けと表現

内容

1	保育と心理学―子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方・とらえ方
2	子どもの発達と環境―子どもの発達と環境　【討議・討論】
3	子どもの発達と環境―からだの発達と運動機能
4	子どもの発達と環境―見ること・考えることの発達　【グループワーク】
5	子どもの発達と環境―情緒の発達と自己の形成
6	子どもの発達と環境―ことばの発達　【グループワーク】
7	人との相互的かかわりと子どもの発達―基本的信頼感の獲得

8	人との相互的かかわりと子どもの発達ー人とのかかわり　【グループワーク】
9	人との相互的かかわりと子どもの発達ー友達関係と遊びの発達　【グループワーク】
10	学びと発達ー記憶の発達、学びのしくみ
11	学びと発達ーやる気と環境
12	生涯発達と発達援助ー発達段階と発達課題、胎児期および新生児期、乳幼児期　【討議・討論】
13	生涯発達と発達援助ー児童期、青年期、成人期以降の課題　【討議・討論】
14	発達援助と評価ー発達援助の意義、保育実践の評価と心理学
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回の講義までにテキストの指定箇所を読み、キーワード、疑問点について各自、調べておくこと。[60分]
【事後学修】講義で明らかになったこと、キーワードの内容をよく復習し、理解をしておく。[60分]

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（40%）と筆記試験（60%）で評価し、60点以上を合格とする。合格に達しなかった場合は、再試験を行う。
到達目標１．課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）
到達目標２．課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）
到達目標３．課題提出（20%/40%）、筆記試験（20%/60%）
【フィードバック】提出された課題には、コメントを記し、翌週以降の授業時間内に返却する。筆記試験は解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第３版　ナカニシヤ出版 2018年
【推薦書】亀田秀子著『いじめ・不登校・虐待と向き合う支援と対応の実際』三恵社　2016年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は、再試験を行う。実施日時・教室・実施方法については、授業内にて連絡する。

科　目　名	子ども家庭支援の心理学		
担当教員名	亀田　秀子		
ナンバリング	NDd2049		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育士資格に関する必修科目である。生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達的な観点から理解を深めることを目指す。

②科目の概要

生涯発達としての初期経験の重要性を理解し、生涯発達とライフサイクルについて理解する。また、家族・家庭の理解においては、家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解、子育て家庭に関する現状と課題の理解を深めていく。

③授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心としてグループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】

④到達目標

1. 学生は、生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、発達課題等について理解し、説明することができる。
2. 学生は、家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達的な観点から理解を深め、説明することができる。
3. 学生は、子育てをめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２支援に関しての基本的理解　①－５生活課題の理解、問題解決の方法提示　②－２援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	生涯発達－生涯発達とライフサイクル
2	生涯発達－乳幼児期から学童期前期にかけての発達　【グループワーク】
3	生涯発達－学童期後期から青年期にかけての発達　【グループワーク】
4	生涯発達－成人期から老年期にかけての発達
5	家族・家庭の理解－家族・家庭の意義と機能　【討論・討議】
6	家族・家庭の理解－親子関係・家族関係の理解　【討論・討議】
7	家族・家庭の理解－子育ての経験と親としての育ち

8	子育て家庭に関する現状と課題－子どもと家庭の状況　【討論・討議】
9	子育て家庭に関する現状と課題－ライフコースと仕事・子育て
10	子育て家庭に関する現状と課題－多様な家庭とその理解　【グループワーク】
11	子育て家庭に関する現状と課題－特別な配慮を要する子どもと家庭　【グループワーク】
12	子どもの精神保健とその課題－なぜ子どもの精神保健を学ぶのか
13	子どもの精神保健とその課題－子どもの生活・生育環境とその影響　【グループワーク】
14	子どもの精神保健とその課題－子どもの心の健康に関わる問題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回の講義までにテキストの指定箇所を読み、キーワード、疑問点について各自、調べておくこと。[60分]

【事後学修】講義で明らかになったこと、キーワードの内容をよく復習し、理解をしておく。[60分]

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（40%）と筆記試験（60%）で評価し、60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は、再試験を行う。

到達目標１．課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標２．課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標３．課題提出（20%/40%）、筆記試験（20%/60%）

【フィードバック】提出された課題には、コメントを記し、翌週以降の授業時間内に返却する。筆記試験は解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原信夫・井上美鈴編著『子ども家庭支援の心理学』北樹出版　2019年

【推薦書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第３版　ナカニシヤ出版　2018年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は、再試験を行う。実施日時・教室・実施方法については、授業内にて連絡する。

科　目　名	子どもの理解と援助		
担当教員名	亀﨑　美沙子		
ナンバリング	NDd2052		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援施設において、子どもの保育や保護者に対する相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、家庭や地域との関係的な視点から子どもを理解し、援助を構想することができるよう指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

②科目の概要

本科目では、保育実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学んでいく。集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいく。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習を中心として子ども理解の視点や方法、子ども理解にもとづく保育の展開方法について学んでいく。また、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。

【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【ビデオカンファレンス】

④到達目標

１．保育実践における子ども理解の意義と方法について理解し、説明することができる。

２．一人一人の子どもの心身の発達状況を把握し、述べることができる。

３．生活や遊びを通した子どもの学びや育ちを読みとり、適切に記述することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

　①-2：支援に関しての基本的理解

　①-3：専門的援助関係の基本的理解と形成

　②-2：援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】

2	保育における子ども理解の意義【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	子ども理解の視点と保育実践①養護と教育の一体性【リアクションペーパー】
4	子ども理解の視点と保育実践②資質・能力と10の姿【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
5	子ども理解の視点と保育実践③集団における経験と子どもの育ち【リアクションペーパー】
6	発達に応じた生活と遊び①乳児【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
7	発達に応じた生活と遊び①幼児【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
8	保育における環境構成の意義と方法【リアクションペーパー】
9	子ども理解の方法①観察と記録【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【ビデオカンファレンス】
10	子ども理解の方法②省察・評価【リアクションペーパー】【グループワーク】【ビデオカンファレンス】
11	子ども理解の方法③カンファレンスにもとづく多面的理解【リアクションペーパー】【ビデオカンファレンス】
12	特別な配慮を要する子どもの理解と援助【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	保護者との連携と子ども理解の相互理解【リアクションペーパー】
14	発達の連続性と小学校との接続【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回　【事前準備】保育所保育指針第1章を読んでくる。[60分]
　　【事後学修】指定課題に取り組む。[60分]
第2～8回　【事前準備】事前学習プリントを記入する。[60分]
　　【事後学修】指定レポートを作成する。[180分]
第9～11回　【事前準備】事例記録を作成する。[60分]
　　【事後学修】セルフチェックシートを活用し、記録を修正する。[180分]
第12～15回【事前準備】保育所保育指針第2章を読む。[60分]
　　【事後学修】学習内容をA4用紙1枚にまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（20%）、課題提出（50%）、筆記試験（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標１．リアクションペーパー（10%/20%）、課題提出（10%/50%）
到達目標２．リアクションペーパー（10%/20%）、課題提出（20%/50%）、筆記試験（10%/40%）
到達目標３．課題提出（20%/50%）、筆記試験（30%/40%）

【フィードバック】毎回のリアクションペーパーをフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館
　その他、授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容の特性により、通常時間割とは異なる日時に2コマを連続実施する場合がある。

科　目　名	**保育内容総論**		
担当教員名	矢野　景子		
ナンバリング	NDd2056		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許を保有する教員が事例検討やワークを中心とした指導を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は保育士資格取得に関する科目である。

②科目の概要

保育所保育指針の理解を通し、具体的な事例および保育の展開の理解について、演習を通して深める。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は、グループワーク・討議・事例検討を中心とした演習授業を行う。【グループワーク】【討議】【発表】

④到達目標

1.保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し説明することができる。

２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解し、説明することができる。

３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解し、作成することができる。

４．保育の多様な展開について具体的に理解し、保育内容の関連から事例の読み取りや考察をすることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①ー2支援に関しての基本的理解

②ー2援助・支援に関する理論の基本的理解

③ー2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

第1回 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 【グループワーク】【事例検討・討議】
第2回保育の内容の歴史的変遷とその社会的背景 【グループワーク】【事例検討・討議】

第3回子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方【グループワーク】【事例検討・討議】

第4回養護及び教育が一体的に展開する保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第5回子どもの主体性を尊重する保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第6回環境を通して行う保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第7回生活や遊びによる総合的な保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第8回個と集団の発達を踏まえた保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第9回家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育 等 【グループワーク】【事例検討・討議】

第10回長時間の保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第11回特別な配慮を要する子どもの保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第12回多文化共生の保育 【グループワーク】【事例検討・討議】

第13回 計画と記録①作成【グループワーク】【事例検討・討議】

第14回 計画と記録②発表【グループワーク】【事例検討・討議】

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回事前の配布資料の熟読や用語等を調べておく(各60分)
【事後学修】各回授業を踏まえ、課題に応じたミニレポートを作成する(各60分)

評価方法および評価の基準

課題への取り組み(40%）、レポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】ミニレポートを次回授業開始時に共有し、前回の授業を振り返りを行う。

1.課題への取り組み(10%/40%)、レポート(表現)(10%/60%)
2.課題への取り組み(10%/40%)、レポート(表現)(10%/60%)
3.課題への取り組み(10%/40%)、レポート(表現)(20%/60%)
4.課題への取り組み(10%/40%)、レポート(表現)(20%/60%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省(2018）保育所保育指針 解説

【推薦書】授業内で提示する

【参考図書】授業内で提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	保育内容演習Ⅰ（健康）		
担当教員名	鈴木　明		
ナンバリング	NDd3057		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。本学科のディプロマポリシー1、3に該当する。

②科目の概要

乳幼児期までにおける健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として,発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力を習得し、健康な乳幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていく。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は、前半は講義とグループワークによるディスカッション、及び発表に向けた準備を行う。後半は各自がプレゼンテーションを行う。

④到達目標

1.保育者に必要な知識・技能を身につける

2.乳幼心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことができる。

3.子どものヘルスプロモーションについてどう対処していくか理解、実践できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-3：専門的援助関係の基本的理解と形成

②-4：体験の意味付けと表現

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	子どものヘルスプロモーション
2	生活習慣の指導と健康管理（乳幼児の栄養と食生活）

3	生活習慣の指導と健康管理（運動と休養）
4	生活環境と安全教育（自然環境に対する適応、遊具）
5	生活習慣と安全指導（安全管理、安全指導の実際）
6	運動遊びの指導
7	健康教育の実際例・健康の評価（健康観察、健康相談）
8	救急法（乳幼児の応急手当ても含む）
9	子どもの健康教育演習（グループワーク）
10	子どもの健康教育演習（学生プレゼンテーション）①
11	子どもの健康教育演習（学生プレゼンテーション）②
12	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）③
13	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）④
14	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）⑤
15	振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。(各回60分)

【事後学修】学びを基に、健康問題について興味を持ってください。（各回90分）

評価方法および評価の基準

授業への積極的な参加状況（10%）、グループワークプレゼンテーション（30%）、ショートテスト、筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業終了時にショートテスト及び質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原則として使用しません。授業中にプリントを配布します。

【参考図書】初回授業時に指示します

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもたちを取り巻く健康問題は日々変わりつつあります。健康というキーワードを常に意識し、授業に臨んでください。

科　目　名	保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）		
担当教員名	鈴木　明		
ナンバリング	NDd2062		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。本学科DPの1、3に該当する。

②科目の概要

健康な子どもたちを育てるという見地から、乳幼児期から移りゆく発育発達を、身体発育、生理機能、運動機能、精神機能より検討し、保育に必要な基礎的知識を養う。

また、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの基本的生活習慣や健康状態の把握方法等を理解する。

③授業の方法

講義を中心に進めるが、映像等の活用やグループワーク形式を用い、理解を深める。毎時間ショートテストを行い、授業の振り返るとともに、疑問や意見を他の学生と共有する。

④到達目標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの基本的生活習慣と食生活について理解する
4. 子どもの健康状態の把握方法を理解する。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-2：支援に関しての基本的理解

①-3：専門的援助関係の基本的理解と形成

②-2：援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れて、学びを深めていく。

1	健康の概念
2	乳幼児の健康（乳幼児の生理機能）
3	乳幼児の健康（身体の発育・発達）
4	乳幼児の健康（発育・発達と疾病）
5	心身の発育と発達（乳幼児のからだ）
6	心身の発育と発達（乳幼児のこころ、乳幼児の動き）
7	乳幼児の健康管理（健康及び日常の観察）
8	乳幼児の健康管理（健康診査、健康診断、環境の整備）
9	乳幼児の安全管理
10	乳幼児の応急手当
11	乳幼児の基本的生活習慣
12	乳幼児の遊び
13	乳幼児のの健康教育
14	健康を求めて
15	振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に示された課題について準備する。(各回60分)

【事後学修】その日の授業の内容を自分なりに理解、整理しておいてください。また授業で習ったことの課題を出すのでまとめておくようにしてください。（各回90分）

評価方法および評価の基準

質疑応答を含む授業への参加度（10%）、毎回授業の最後に確認のショートテスト(40%）、筆記試験(50%）とし
、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業終了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に説明します。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

常日頃から健康というキーワードを頭に入れてください。子どもたちの健康とともに、指導する側（すなわち先生）の健康問題も考えていきます。

科　目　名	保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）		
担当教員名	岩﨑　桂子		
ナンバリング	NDd2062		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

保育所保育士として勤務経験あり。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。本学科DPの1、3に該当する。

②科目の概要

健康な子どもたちを育てるという見地から、乳幼児期から移りゆく発育発達を、身体発育、生理機能、運動機能、精神機能より検討し、保育に必要な基礎的知識を養う。

また、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの基本的生活習慣や健康状態の把握方法等を理解する。

③学修目標（＝到達目標）

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの基本的生活習慣と食生活について理解する
4. 子どもの健康状態の把握方法を理解する

内容

1	オリエンテーション/保育の定義・保育内容と領域について
2	健康と保育/教育の環境との関係性について
3	保育・教育の環境と健康について/子どもにとっての健康と基本的生活習慣について
4	子どもの健康の重要性と養育力の低下について/「ねらい」について
5	「内容」の比較/幼稚園と保育所の関連について
6	「内容」の検討…先生・保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活する
7	「内容」の検討と指導案の実際…いろいろな遊びの中で十分に体を動かす
8	「内容」の検討…様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む/健康と食育

9	「内容」の検討…衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分で行う/園生活に見通しを持つ
10	「内容」の検討…病気の予防などに必要な活動/家庭との連携
11	「内容」の検討…危険な場所や災害時などの行動の仕方/安全教育 模擬保育に向けての準備
12	模擬保育に向けての準備/グループで指導案を作成する
13	指導案に沿った模擬保育と講評（1～３グループ）
14	指導案に沿った模擬保育と講評（４～６グループ）
15	振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日ごろから新聞等の健康関連の記事に目を通して、健康に興味を持ってください。またその内容が正しいかどうかも判断できるような知識を持ってください。(各回60分）

【事後学修】その日の授業の内容を自分なりに理解、整理しておいてください。また授業で習ったことの課題を出すのでまとめておくようにしてください。（各回90分）

評価方法および評価の基準

質疑応答を含む授業への参加度（10%）、提出物の提出状況（20%）模擬保育に向けた指導案(30%）、模擬保育発表(40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業修了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】清水将之他編集「改訂版　<ねらい>と<内容>から学ぶ保育内容・領域健康」わかば社

厚生労働省編「保育所保育指針」フレーベル館

＊他の教科で使用しているものがあれば、購入の必要はありません。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

常日頃から健康というキーワードを頭に入れてください。子どもたちの健康とともに、指導する側（すなわち先生）の健康問題も考えていきます。

アクティブラーニングによる授業展開を行います。積極的な姿勢で授業に参加しましょう。

科　目　名	保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係）		
担当教員名	矢野　景子		
ナンバリング	NDd2063		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は保育士資格取得に関連する科目である。

②科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「人間関係」について理解を深める。乳幼児期の人間関係形成の理論的理解を踏まえ、保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。

③授業の方法

グループワークを中心として、事例検討及び模擬保育を実施する【グループワーク】【ロールプレイ】

④学修目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し,説明することができる。
2.乳幼児期の人間関係形成の理論的理解と個と集団を捉える観点を説明することができる。
3.遊びにおける人間関係の形成と保育者の援助・役割を理解し、事例の読み取りができる。
4.乳幼児期に育まれる自我の芽生えと自立について理解し、保育における生活場面における自立を理解し、その指導と援助について説明、考察することができる。

⑤ディプロマポリシーとの関連

①ー3専門的援助関係の基本的理解と形成
②ー1事実や支援の効果についての実証及び理解
②ー2援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

第1回オリエンテーション・領域「人間関係」の理解：これまでどのような人と関わってきたのかを振り返る【グループワーク】

第2回親との出会いとかかわり-信頼関係の基盤-：家庭における愛着形成について話し合う。【ディスカッション】
第3回自己の感覚と自我の芽生え:事例を基に自我の芽生えの時期について理解する【ディスカッション】
第4回子どもと保育者のかかわり①子どもとの信頼関係を築く:事例を基に信頼関係を築くことについて話し合う。【ディスカッション】
第5回子どもと保育者のかかわり②子ども同士のかかわりを育む:事例を子ども同士の人間関係について話し合う。【ディスカッション】
第6回人間関係を育む遊びと環境①遊びと子どもの育ち：【ディスカッションと事例検討】
第7回人間関係を育む遊びと環境②遊びのなかで共有すること：【ディスカッションと事例検討】
第8回人間関係を育む遊びと環境③遊びをつくる仲間・異年齢交流：【ディスカッションと事例検討】
第9回人間関係を育む遊びと環境④地域との交流：【ディスカッションと事例検討】
第10回人間関係を育む保育者の援助①個と集団：【ディスカッションと事例検討【
第11回人間関係を育む保育者の援助②多様性・協働性を育む保育のデザイン：【ディスカッションと事例検討】
第12回人間関係を育む保育者の援助③いざこざから生みだされるもの：【ディスカッションと事例検討】
第13回人間関係を育む保育の計画：指導計画の作成（人間関係を育む保育の展開）【グループワーク】
第14回人間関係を育む保育の実施と評価、改善:発表を基に改善点を検討する。【グループワーク】：
第15回まとめ　領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題：これまでの学びをもとに、関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行う。【プレゼンテーション】【討議】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業に該当する資料や教科書を熟読すること。わからない用語は事前に調べノートにまとめること。各授業1時間
【事後学修】授業内で得た気づきや考えをリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

評価方法および評価の基準

課題への取り組み(40%）中間課題(30%)、期末レポート課題(30%)とし,評価60点以上を合格とする。
1.課題への取り組み(10%/40%)、中間課題(15%/30%)
2.課題への取り組み(10%/40%)、中間課題(15%/30%)
3.課題への取り組み(10%/40%)、期末課題(15%/30%)
4.課題への取り組み(10%/40%)、期末課題(15%/30%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】①岩立京子「事例で学ぶ保育内容」萌文書林
②厚生労働省「保育所保育指針」

【推薦書】無藤隆 古賀松香「社会情動的スキルを育む保育内容人間関係」北大路書房
汐見稔幸・無藤隆（2018）『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　解説とポイント』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）		
担当教員名	矢野　景子		
ナンバリング	NDd2065		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育士資格取得に関連する科目である。

②科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するよう具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を習得する。

③授業の方法

グループワークを中心とした演習、事例検討を行う。【グループワーク】【討議】

④到達目標

1. 領域「言葉」のねらいと内容を理解し、説明することができる。
2.乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解し、説明することができる。
3.乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解して、指導計画の立案ができる。
4.模擬保育とその振り返りを通して、計画と評価の観点を理解し、考察することができる。

⑤ディプロマポリシーとの関連

①ー3専門的援助関係の基本的理解と形成

②ー1事実や支援の効果についての実証及び理解

②ー2援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

第1回　オリエンテーション・領域「言葉」のねらい及び内容【グループワーク】キーワードの抽出

第2回　言葉の発達過程①乳児期：事例の検討と発達過程作成　【グループワーク】

第3回　言葉の発達過程②乳児期：事例の検討と発達過程作成【グループワーク】

第4回　言葉の発達過程③幼児期：事例の検討と発達過程作成【グループワーク】
第5回　言葉の発達過程④幼児期（書き言葉の発達の道筋文字への関心と援助【討議】
第6回　言葉を育む環境構成と援助①話したい、聞きたい、伝え合いを生む援助:事例を基に、保育者の役割をまとめる。【グループワーク】
第7回　言葉を育む環境構成と援助②言葉の豊かさ、美しさに気づく援助：事例を基に、保育者の役割をまとめる。【グループワーク】
第8回　言葉を育む環境構成と援助③特別な配慮を要する子どもへの援助と支援：事例を基に、保育者の役割をまとめる。【グループワーク】
第9回　言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解①絵本・紙芝居：絵本や紙芝居を基に、選定の仕方や保育の展開について話し合う。【グループワーク】
第10回 言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解②言葉あそび:言葉を使った遊びを探し、保育の展開について話し合う。【グループワーク】
第11回 子どもの言葉を育む保育の実際:事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のねらい、内容を読み取る。【グループワーク】
第12回 子どもの言葉を育む保育の計画①（模擬保育）：事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のねらい、内容を計画する。【グループワーク】
第13回 子どもの言葉を育む保育の実践②（模擬保育）：計画を基に、実践する。【グループワーク】
第14回 子どもの言葉を育む保育の評価と改善②（模擬保育）：発表をもとに実践を評価し、改善を考える。【グループワーク】
第15回　まとめ　これまでの学びを踏まえ、関心のあるテーマについてまとめる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に該当する配布資料や教科書を熟読しておく。授業に必要な教材を準備する。各授業1時間
【事後学修】授業内で考えたことや気づいたことを基にリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

評価方法および評価の基準

授業への参加度３０％、小レポート・中間課題３０％、期末レポート課題４０％として総合的に判断する。とし、総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】リフレクションシートを基に、各回にて、前授業の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内藤知美・新井美保子（編著）（2017）『コンパス保育内容言葉』建帛社
【推薦書】汐見稔幸・無藤隆（2018）『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』ミネルヴァ書房
【参考図書】授業内で提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**ピアノ**		
担当教員名	野田　日出子		
ナンバリング	NDd1072		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

②科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

④到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

②-1事実や支援の効果についての実証及び理解

②-4体験の意味付けと表現

内容

第1回　オリエンテーション

第2回　鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

第3回 ピアノの基本的な奏法

第4回 グループレッスン①【実技】
第5回 楽典①
第6回 楽典②
第7回 楽典③、個人レッスン①【実技】
第8回 楽典④、個人レッスン②【実技】
第9回 個人レッスン③【実技】
第10回 個人レッスン④【実技】
第11回 個人レッスン⑤【実技】
第12回 グループレッスン②【実技】
第13回 個人レッスン⑥【実技】
第14回 個人レッスン⑦【実技】
第15回 弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）
【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

①各回の課題確認40%、②実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：①（20%/40%）②（30%/60%）
到達目標2：①（10%/40%）②（10%/60%）
到達目標3：①（10%/40%）②（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』（教育芸術社）
【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ピアノ		
担当教員名	野田　日出子		
ナンバリング	NDd1072		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

②科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

④到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

②-1事実や支援の効果についての実証及び理解

②-4体験の意味付けと表現

内容

第1回　オリエンテーション

第2回　鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

第3回 ピアノの基本的な奏法
第4回 グループレッスン①【実技】
第5回 楽典①
第6回 楽典②
第7回 楽典③、個人レッスン①【実技】
第8回 楽典④、個人レッスン②【実技】
第9回 個人レッスン③【実技】
第10回 個人レッスン④【実技】
第11回 個人レッスン⑤【実技】
第12回 グループレッスン②【実技】
第13回 個人レッスン⑥【実技】
第14回 個人レッスン⑦【実技】
第15回 弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）
【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

①各回の課題確認40%、②実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：①（20%/40%）②（30%/60%）
到達目標2：①（10%/40%）②（10%/60%）
到達目標3：①（10%/40%）②（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』（教育芸術社）
【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ピアノ		
担当教員名	野田　日出子		
ナンバリング	NDd1072		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

②科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

④到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

②-1事実や支援の効果についての実証及び理解

②-4体験の意味付けと表現

内容

第1回　オリエンテーション

第2回　鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

第3回 ピアノの基本的な奏法
第4回 グループレッスン①【実技】
第5回 楽典①
第6回 楽典②
第7回 楽典③、個人レッスン①【実技】
第8回 楽典④、個人レッスン②【実技】
第9回 個人レッスン③【実技】
第10回 個人レッスン④【実技】
第11回 個人レッスン⑤【実技】
第12回 グループレッスン②【実技】
第13回 個人レッスン⑥【実技】
第14回 個人レッスン⑦【実技】
第15回 弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）
【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

①各回の課題確認40%、②実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：①（20%/40%）②（30%/60%）
到達目標2：①（10%/40%）②（10%/60%）
到達目標3：①（10%/40%）②（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』（教育芸術社）
【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	ピアノ		
担当教員名	野田　日出子		
ナンバリング	NDd1072		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

②科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

④到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①-3専門的援助関係の基本的理解と形成

②-1事実や支援の効果についての実証及び理解

②-4体験の意味付けと表現

内容

第1回　オリエンテーション

第2回　鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

第3回 ピアノの基本的な奏法
第4回 グループレッスン①【実技】
第5回 楽典①
第6回 楽典②
第7回 楽典③、個人レッスン①【実技】
第8回 楽典④、個人レッスン②【実技】
第9回 個人レッスン③【実技】
第10回 個人レッスン④【実技】
第11回 個人レッスン⑤【実技】
第12回 グループレッスン②【実技】
第13回 個人レッスン⑥【実技】
第14回 個人レッスン⑦【実技】
第15回 弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）
【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

①各回の課題確認40%、②実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。
到達目標1：①（20%/40%）②（30%/60%）
到達目標2：①（10%/40%）②（10%/60%）
到達目標3：①（10%/40%）②（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』（教育芸術社）
【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	介護総合演習Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか、宮内　寿彦、山口　由美、人見　優子		
ナンバリング	NDe3077		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士や看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための介護実習の目的や意義について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　介護福祉士養成課程の指定科目領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の１つである。主として介護実習Ⅰに対応し、実習と組み合わせての学習を行う。

　実習において支援を必要とする人々に実践的に関わる上での留意点について学び、介護実習の目的や意義について理解する。介護実習に臨むための事前学習及び事後学習に取り組む科目である。

②科目の概要

　介護実習の教育的効果を高めるため、実習の目的や意義、基本的マナー、実習記録の記載方法、実習計画の立案方法など、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習前に実習計画発表会、終了後には実習報告会を開催する。

③授業の方法（ALを含む）

　講義形式で実習の目的・意義等を理解する。実習計画書や実習報告書はレポート形式で記載し、報告会の機会を用いて発表・報告する。【レポート】【プレゼンテーション（発表+意見交換）】

④到達目標

　１．介護実習Ⅰにおける実習の意義について理解することができる

　２．実習前・中・後に及び介護実習のプロセスを理解することができる

　３．介護実習Ⅰ-１～介護実習Ⅱ-２まで介護実習全体の学びを理解することができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

　①-１　社会福祉に関する法や制度の基本的理解

　①-２　支援に関しての基本的理解

内容

1	介護実習とは　＜介護実習の目的と意義について＞
2	介護実習Ⅰ-１の概要理解　＜実習施設の特性と利用者理解＞
3	介護実習計画書の立案方法の理解と作成
4	介護実習における基本的マナー
5	介護実習に関する書類と実習記録の記載方法
6	介護実習Ⅰ-１　実習計画発表　＜実習計画発表会＞
7	介護実習Ⅰ-１　実習中間指導　＜グループ指導＞
8	介護実習Ⅰ-１　実習振返り　＜実習反省会＞
9	介護総合演習Ⅳ　介護実習報告会参加
10	介護総合演習Ⅳ　介護実習報告会参加
11	介護実習Ⅰ-２の概要理解　＜実習施設の特性と利用者理解＞
12	介護実習計画書の立案方法の理解
13	介護実習計画書と関連書類の作成
14	介護実習Ⅰ-２　実習計画発表　＜実習計画発表会＞
15	介護実習Ⅰ-２　実習振返り　＜実習反省会＞

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業の初回時に配布される「介護実習の手引き」を読み、内容を理解しておく（各授業に対して６０分）

【事後学修】各回の授業後に「介護実習の手引き」の該当頁を復習し理解を深める。提出課題が課された場合には提出期限に確実に提出できるよう、事後学習の時間を用いて各自取り組むこと（各授業に対して６０分）

評価方法および評価の基準

実習に関する提出書類（提出状況・記載内容）・授業内の取組み・教員面談などから総合評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却及び冊子等にまとめ配布する。提出書類は事前及び事後指導において教員面談にも使用しフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成課程作成　「介護実習の手引き」

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各講の進行に応じて、実習配属に必要となる資料作成・提出が課されます。

提出書類は提出期限を厳守すること。

科　目　名	介護実習Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか、宮内　寿彦、山口　由美、人見　優子		
ナンバリング	NDe4078		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士や看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院等における介護を必要とする方への実務経験を活かして介護福祉士資格を有するための介護実習の目的や意義について教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　介護福祉士養成課程指定科目である。

　支援を必要とする人々に対する支援のあり方や関わりの基本的理解について、実習施設における実習を通して実践的に学ぶ。

②科目の概要

　福祉施設で生活を送る介護を必要とする人々について、個々の生活を理解すると共に施設における個別ケアについて学ぶ。実習施設における利用者や家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の基本的理解、多職種連携における介護福祉士の役割などを理解することを目的とする。

③授業の方法（ALを含む）

　実習中の学びは実習記録にまとめ、身に付けた知識や感想、疑問点等を事実に基づき論理的に文章で表現することで学びを深める。実習反省会の機会に実習指導者等へ実習における学びを発表し、助言や意見交換を行うことで理解を深め、自己の課題などを明らかにし次実習へ活かしていく。【レポート（実習記録）」【ディスカッション】【プレゼンテーション（実習反省会】

④到達目標

・高齢者介護に関わる施設や事業所の特性や利用者の生活を理解することができる
・利用者とのコミュニケーションを通じて、介護を必要とする方との基本的な関わりについて理解することができる
・入所施設における基本的な生活支援技術について理解することができる

⑤この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

　②-１　事実や支援の効果についての実証及び理解

　②-２　援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

・介護実習施設・事業Ⅰ　に区分される施設・事業所における学外実習である。

介護実習Ⅰ-①　４日間（３２時間）　１年生後期
　認知症対応型共同生活介護事業所　通所介護施設　小規模多機能型居宅介護事業所等

介護実習Ⅰー①　８日間（６４時間）　１年生後期
　介護老人福祉施設　介護老人保健施設　障害者支援施設等の入所施設

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各実習に応じて事前学習を設定し、実習までに設定した事前学習に取り組む。
実習中は実習における実習課題に対し事前学習を行い実習に臨む。
（毎日６０分以上）
【事後学修】日々の実習の学び、課題を明らかにし、実習目標に対する評価考察を行う。
実習記録、実習反省会などから実習先般を振返る（毎日６０分以上）

評価方法および評価の基準

実習状況・取り組み、実習記録（提出状況・記載内容）、教員面談、実習施設からの実習生評価、自己評価などから総合的に評価を行い、６０点以上を合格とする。
【フィードバック】実習記録、実習先での実習反省会、実習担当教員との面談、実習報告会等を通してフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成課程作成　「介護実習の手引き」

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**福祉と食**		
担当教員名	宮内　寿彦、片居木　英人、今井　伸、佐藤　陽 他		
ナンバリング	NDf1089		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は人間福祉学科の展開科目。人間生活学部の基本理念である「健幸」の概念から、「食」を通じて生きる希望を持つことができる支援について、乳幼児・障害者（児）・高齢者等を対象として福祉学視点で学ぶ。

②科目の概要

福祉領域における「乳幼児・児童領域」・「障がい領域」・「高齢領域」の３領域の、「福祉と食」ついての現状と課題について学習する。

③授業の方法（ALを含む）

「福祉と食」は、人間福祉専任教員の専門領域をテーマにオムニバス形式で行う。

【ケースメソッド 】

④到達目標

各領域の「食」に関する知識の修得と「尊厳」と「自立」について、説明することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

①－４人権尊重の理解、問題解決の方法提示

②－１事実や支援の効果についての実証及び理解

③－１問題解決のための専門性と倫理

内容

1	事前課題～「福祉と食」に関連する福祉関連事業についての自己学習～ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ内容	担当：宮内
2	事前課題～「福祉と食」に関連する福祉関連事業についての自己学習～	担当：宮内
3	事前課題～「福祉と食」自己学習フィードバック	担当：宮内
4	「乳幼児・児童領域」を取り巻く「食育」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：亀﨑
5	「幼児・児童領域」を取り巻く「食育」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：伊藤

6	「乳幼児・児童領域」を取り巻く「食育」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：矢野
7	「障がい領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：人見
8	「高齢領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：富井
9	「高齢領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：山口
10	「高齢領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：二瓶
11	「児童領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：大山
12	「児童・障害・高齢領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：佐藤
13	「児童・障害・高齢領域」を取り巻く「食」の現状と課題【ケースメソッド】	担当：今井
14	「福祉と食とは　～健康で文化的な最低限度の生活と「食」～【ケースメソッド】	担当：片居木
15	「福祉と食とは　～総括～	担当：宮内

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、配布オリジナル資料の学習箇所を事前に読み、わからない用語及び関連用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った配布オリジナル資料の学習箇所を再度読み、わからなかった用語及び関連用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

毎回の授業テーマ内容の小レポート評価と「福祉と食」をテーマに「まとめレポート」を実施し、総合評価６０点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員によるオリジナル資料の配布

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

人間生活学部の基本理念である「健幸」の概念について、「食」を通じて生きる希望を持つことの意味を深めてください。

科　目　名	**介護基礎**		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	NDf1091		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士を有する教員が介護施設での実務経験を活かし、個々に応じた基本的な介護の知識と介護技術を教授する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として履修し介護に関する基本的な知識と技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修して欲しい科目である。

②科目の概要

高齢や障がいにより支援を必要とする人が主体的にいきいきと暮らすために、支援者が身に付けておくべき知識と技術を学ぶ。

年齢特性や障がい特性に応じた生活支援に関する調査と基本的技術を習得する。

③授業の方法（ALを含む）

講義と介護実習室における演習を組み合わせて行う。

④到達目標

１．介護を必要とする者に対する生活支援の基本的な知識を理解することができる。

２．利用者主体に基本的な生活支援技術を身に付けることができる。

３．利用者の尊厳を支える生活支援のプロセスを習得することができる。

⑤この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

②－１　事実や支援の効果についての実証及び理解

②－２　援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	ガイダンス　介護福祉の基礎的理解
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解

5	車椅子体験と介助方法
6	食事の介護１<食事の意義と目的>
7	食事の介護２<食事支援における基本的介護技術>
8	身じたくの介護１<身じたくの意義と目的>
9	身じたくの介護２＜身じたくにおける介護技術＞
10	移動の介護１＜移動の意義と目的＞
11	移動の介護２＜移動・移乗における介護技術①＞
12	移動の介護３＜移動・移乗における介護技術②＞
13	排せつの介護＜排せつの意義と目的・排せつにおける介護技術＞
14	高齢者の理解②
15	介護基礎に関する知識・生活支援技術の総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに基づき関連資料を確認しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で配布した資料を確認し支援技術の復習も合わせて行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み２０点、体験型レポート４０点、筆記試験４０点とし、総合評価６０点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料や教材等は、講義・演習内容に合わせて適宜配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

介護実習室での演習の際は服装や物品使用等のルールを確認してください。

授業・演習内容により服装・持ち物が異なります。翌週の授業内容を確認し各自忘れないよう準備をしてください。

科　目　名	**手話**		
担当教員名	谷　千春		
ナンバリング	NDf1092		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

②科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

③学修目標（＝到達目標）

NPO手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容

毎回のテーマに合わせて、「単語」、「文法」、「会話練習」で手話を身につける。

聴覚障がい者の諸問題についてグループ・ディスカッションで掘り下げて行く。

第1回　あいさつ

第2回　家族

第3回　名前

第4回　指文字ア～サ行

第5回　点字の基礎

第6回　指文字タ～ハ行

第7回　趣味

第8回　指文字マ～ワ行

第9回　地名

第10回　実技まとめ

第11回　色彩

第12回　食べ物

第13回　介護

第14回　講義まとめ

第15回　会話練習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと(60分程度)

【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと(各授業に対して15分程度)

評価方法および評価の基準

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験（40%)、授業への参加度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の読み取り問題は、授業の最後に答え合わせをする。実技まとめ、講義まとめについては、その翌週に正解発表と解説を行う。自分の到達度や課題について確認しよう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

手話は難しいと思っていませんか?皆さんが普段使っているしぐさがそのまま手話になっているものも少なくありません。さぁ、いっしょに新しい言語を学んでみませんか?

科　目　名	多職種連携論		
担当教員名	吉田　亨		
ナンバリング	NDf1093		
学　　科	人間生活学部（N)-人間福祉学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

社会福祉展開科目に位置づけられている選択科目。社会福祉士・介護福祉士国家試験受験資格や保育士資格のための必修科目ではない。令和2年度入学生は、2～4年生でも履修できる予定。

②科目の概要

多職種福祉サービスにおける多職種連携が必要となる場面や，他職種の専門性や行動原理を紹介する。本学で接する機会が少ない医療職に加え，民生・児童委員などの住民との連携についても紹介する。また，多職種連携の機会やその進め方も紹介する。

③授業の方法（ALを含む）

講義と演習を組み合わせて行います。【リアクションペーパー】を毎回使います。

④到達目標

1．福祉サービスでの多職種連携の必要性を，具体的に述べることができる。

2．多職種連携が必要となった時にやるべきことを，具体的に述べることができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

③-1問題解決のための専門性と倫理　③-3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

授業は，講義や事例紹介を中心に行う。

1	社会福祉の動向と多職種連携の歴史
2	利用者中心の多職種連携の仕組みと技術
3	連携先としての医師・看護師・薬剤師
4	連携先としての理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
5	連携先としての歯科医師・歯科衛生士
6	連係先としての行政機関、教育関係者

7	連携先としての主任児童委員、民生・児童委員、ボランティア
8	連携先としての管理栄養士・栄養士、運動専門職、メンタルヘルス専門職
9	まとめ　ミニテスト①
10	保育における多職種連携
11	介護における多職種連携
12	地域包括ケアにおける多職種連携
13	地域づくりにおける多職種連携
14	多職種連携と社会福祉士　ミニテスト②
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に示された授業のキーワードを調べておく。(60分)

【事後学修】配付資料で授業内容を再確認すること。(40分)

評価方法および評価の基準

ミニテスト(２回)90%、平常点10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で出来る限り回答する。ミニテストの答案は、採点が終わり次第、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず、プリントを配付する。

【推薦書】日本介護福祉士会編，介護福祉士がすすめる多職種連携．中央法規出版
宮下公美子，多職種連携から統合へ向かう地域包括ケア．メディカ出版
東京大学高齢社会総合研究機構編，地域包括ケアのすすめ．東京大学出版会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価で60点以上が見込めない場合は、再試験を課す。